

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1243号	氏名	山之内孝彰
論文審査担当者		主査教授	田口 尚
		副査教授	永安 武
		副査教授	上平 憲
<p>1. 研究目的の評価 虚血再灌流障害は重篤な臓器障害の一因となることから、その抑制機構が検索されている。この論文は臓器の低代謝状態から障害なく覚醒する冬眠現象に着目し、冬眠誘導物質オピオイドのアナログである[D-Ala2, D-Leu5] enkephalin (DADLE)の肝虚血再灌流障害に対する肝組織の保護効果について検討したものであり、研究の目的は妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 Wister ラットの肝に虚血再灌流を行い、肝の病理組織学的変化、および GTP、hyaluronic acid、malondialdehyde、胆汁産生量の変化を解析し、DADLE の効果を機序の面から検討したものであり、その研究手法は妥当である。</p> <p>3. 解析考察の評価 上記手法で解析した結果、DADLE が虚血再灌流に対して肝細胞保護作用を持つことが示された。その機序としては肝内過酸化物質の抑制による肝細胞に対する直接保護効果が考えられ、好中球を介する経路や虚血時の ATP 保存とは異なる機序である可能性を示しており、その解析や考察も高く評価できる。</p> <p>以上のように本論文は虚血再灌流障害の治療法開発に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			